

放射光の未来を担う若手研究者を 増やすための小さな提言

国際基督教大学 (ICU) 高倉かほる

若手研究者の土壌を肥やす目的で (と思うが)、学部及び修士課程の学生、民間企業の若手研究者などを対象に、“電子加速器で遊びませんか”と名づけた講習会を高工研・PFで開くようになって、今年で2年目となる。昨年は、1990年7月30日、31日に行われ、今年は、5月27日～29日に行われた。我が大学でも、案内を掲示しておいたら、学部3年生が早速反応を示し、是非参加したいという声がかつ上がった。ところが、初年度は、応募者も多く、学部3年生は遠慮して欲しいということで断念をし、次年度は、学期中もあり、授業を休んで行かなければならないという事で断念をした。ICUでは、学部4年生は、年間9単位の卒業研究を履修する事になっている。テーマはある程度自由に選ぶことができる様になっていて、この卒業研究でどのようなテーマを選ぶかは、学生自身が大学を出て将来どのような道を進むかという事と少なからずかかわっている。この卒論テーマを決めるのは、学部3年の冬頃に決め4年の4月から、それぞれの卒論テーマに従って研究を進めていくということになる。従って、“電子加速器で遊びませんか”という掲示が出た時に、

早速反応を示したのは、学部4年生や、大学院生ではなく、学部3年生であったのも当然といえるかもしれない。学部4年生や大学院生は、自分の将来の方向をある程度きめてしまっており、“電子加速器は自分には、あまり関係ないな”ということになってしまうからである。他の大学の状況については良くわからないが、私の身のまわりの経験から、高工研・PFに提言したいことは、このような講習会を、学部3年生程度でも受講できる様に御配慮頂きたいということである。時期や内容なども今までのものと少し違ったものになるかもしれない。あるいは、大学院生向けと、2種の講習会を用意するということになるかもしれない。もちろん、高工研・PFに限らず他の放射光施設でも、このような学部レベルからの教育を目的とした講習会を是非、開いて頂きたいと思う。スタッフの方々の御苦勞は考えずに、受講する者の立場から勝手な事を申し上げました。もしかしたら、このような小さな事が、放射光施設における若手研究者の層を厚くする事と間接的に結びつくかもしれないと思ったからです。